

芭蕉が歩いた道

高山森々として一鳥声きかず 木の下闇茂りあひて、夜行くがごとし…
「おくのほそ道」より

山刀伐峠

※芭蕉と曾良は、元禄二年（一六八九）五月十七日（陽暦七月三日）の午前、この峠を越えて尾花沢に向かいました。

山刀伐峠は、当時、「おくのほそ道」の本文からもうかがうことができるように、ブナ林の中の細く曲がりくねった道でしたが、今は新道ができたことよって、一瞬のうちに通り過ぎてしまいます。

土地の若者の案内で芭蕉主従が苦勞して越えた山刀伐峠（旧道）は、昭和六〇年の秋に「歴史の道」として整備され、散策が容易にできるようになりました。

コースは、かなり傾斜のきつい所もありますが、履物はスニーカーでも十分です。山頂付近には駐車場、トイレが整備され、また、頂上近くの子宝地藏尊、子持ち杉、山刀伐峠顕彰碑付近には簡単な休憩所もあり、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。



「おくのほそ道」尾花沢

— 芭蕉と曾良を “さまざまにもてなしはべる” —

元禄2年（1689年）

5月17日（陽暦7月3日）

松尾芭蕉と河合曾良は「おくのほそ道」の旅で、山刀伐峠を越え、屋過ぎ旧知の鈴木清風宅に着き、この日は清風宅に泊まった。

5月18日（陽暦7月4日）

昼、養泉寺で風呂に入り、この日から養泉寺に延べ7泊した。

5月19日（陽暦7月5日）

村川素英が養泉寺で奈良茶をご馳走した。

5月20日（陽暦7月6日）

小雨 記事なし

5月21日（陽暦7月7日）

朝は鈴木小三郎（東水）宅、晩は沼沢所左衛門（遊川）宅に招待され、この夜は清風宅に泊まった。

5月22日（陽暦7月8日）

晩は、村川素英に招待された。

5月23日（陽暦7月9日）

夜は、沼沢仁左衛門（秋調）に招待された。この夜は、日待（ひまち）の行事があり、その夜は清風宅に泊まった。

5月24日（陽暦7月10日）

晩は、田中藤十郎（一橋）が養泉寺でもてなした。

5月25日（陽暦7月11日）

夜、沼沢仁左衛門（秋調）が庚申待（こうしんまち）に招待した。

5月26日（陽暦7月12日）

昼より沼沢所左衛門（遊川）宅において歌川平蔵（東陽）がもてなした。

5月27日（陽暦7月13日）

晴れ、午前6時30分ごろ尾花沢から山寺立石寺へ向かった。鈴木清風が楯岡まで馬を用意してくれた。

このように、松尾芭蕉と河合曾良は、5月17日（陽暦7月3日）の昼から、5月27日（陽暦7月13日）の朝まで連日、鈴木清風を取り巻く尾花沢の俳人たちの歓待（奈良茶飯など）を受け、日待（ひまち）・庚申待（こうしんまち）の行事を体験しました。

そうして、歌仙「すずしさを」と「おきふしの」の二巻を巻いています。



芭蕉・清風歴史資料館
TEL(0237)22-0104
尾花沢市商工観光課
TEL(0237)22-1111(代) FAX(0237)22-3222